

日本の中年女性では、糖尿病により全死亡リスクが2倍に

糖尿病は早期死亡リスクと関連するとの報告があるが、それらのほとんどが欧米のもので、日本人を対象に検討した研究は少ない。日本人と欧米人では遺伝的にも環境的にも違いがあり、主な死因も異なるため、本研究では日本人を対象とした大規模コホート研究（JPHC 研究）により糖尿病と早期死亡リスクの関連について検討した。

40～69歳の男性 46,017 人および女性 53,567 人を対象に、1990 年～2010 年まで追跡した。追跡期間（中央値 17.8 年）に男性 8,223 人、女性 4,640 人が死亡した。解析の結果、糖尿病患者では非糖尿病患者に比べ全死亡リスクが高く、ハザード比は男性で 1.60、女性で 1.98 とリスク上昇が認められた。死因別では、糖尿病患者では非糖尿病患者に比べ、循環器疾患による死亡リスクが高く、ハザード比は男性で 1.76、女性で 2.49 であった。一方、がんによる死亡リスクの上昇は緩徐であった（ハザード比：男性で 1.25、女性で 1.04）。循環器疾患およびがん以外の原因による死亡リスクは、男女ともに糖尿病との関連が認められた（ハザード比：男性で 1.91、女性で 2.67）。

したがって、日本の中年糖尿病患者では、非糖尿病患者と比べて全死亡リスクが男性で 1.6 倍、女性で 1.98 倍と高く、とくに循環器疾患による死亡リスクが上昇することが明らかとなった。

出典：British Medical Journal. Open. 2015 May 3; 5(4):e007736